

2012年第3四半期の純利益は19億ドルと公表

- 税引き後営業利益は16億ドル、希薄化後1株当たり利益は1.00ドル
- 保険事業の営業利益は87%増加して、16億ドル
- AOCIを除く1株当たりブック・バリューは10%前期に続き増加して61.49ドル
- 80億ドルの株式買い戻しを完了、年初来では130億ドルを買い戻し

2012年11月1日(ニューヨーク発):アメリカン・インターナショナル・グループ・インク(ニューヨーク証券取引所銘柄:AIG)(「AIG」)は、2012年第3四半期のAIGに帰属する純利益が19億ドル、税引き後営業利益が16億ドルになったと公表しました。これに対して、2011年第3四半期はAIGに帰属する純損失が40億ドル、税引き後営業損失が30億ドルでした。2012年第3四半期の希薄化後1株当たり利益、1株当たり税引き後営業利益はそれぞれ1.13ドル、1.00ドルとなり、これに対して2011年第3四半期の希薄化後1株当たり損失、1株当たり税引き後営業損失はそれぞれ2.10ドル、1.58ドルでした。

AIG社長兼CEOのロバート・H・ベンモシエは以下のように述べました。「AIGは中核の保険事業と高水準の投資利回りを堅調に維持し、今期も底堅い利益をあげることができました。こうした勢いは続くと思われ、将来に向けて、合理化、効率化をさらに推し進め即応力の高い組織を築いています。」

「この1週間、私たちはハリケーン「サンディ」で被災したお客さまへの支援と、従業員の皆さんの安全確保を優先させてきました。保険事業の観点から、今回のハリケーンによる財務上の影響を見積もるのは時期尚早です。現在、本社を含むマンハッタン南部にあるAIGのオフィスは停電中ですが、事業継続計画により、お客様にサービスを提供し続け、業務をほぼ中断せずに続けることができている。嵐の中を耐え、AIGとお客様のために尽力してくれた社員に感謝しています。」

「第3四半期に、AIGは戦略的な投資により効率を向上させると同時にグローバルな損害保険事業において、料率トレンドの改善、戦略的な取り組みの継続的実行、最近取得した仕組み証券の好調な推移により利益を得ました。また、米国内の生命保険事業およびリタイアメント・サービス事業は底堅い利益をあげ、高利回り投資の好調やオルタナティブ投資のプラスのリターンから恩恵を受けました。モーゲージ・ギャランティ、航空機リースはいずれも利益をあげ、それぞれの業界におけるリーダーとしての地位を強固なものとししました。」

「11月11日には、中核となる保険事業においてAIGブランドが再登場します。これは驚異的な復活というだけでなく、過去数年間にわたる多くのお客様や販売パートナーによる変わらぬ支援や信頼の表れでもあります。当四半期には、金融危機の際の米国政府による1,823億ドルの公的支援に対し、現時点において合計150億ドルを超える利益を出すかたちで完済するという重要な成果を達成しました。また、AIGは、財務力と流動性を強化し、今年に入っておよそ130億ドルの普通株式を買い戻しています。」

ベンモシエ社長兼CEOは以下のように締めくくりました。「金融危機から4年で私たちの誇りであるAIGは目覚ましい回復を成し遂げました。社員、そして多くの政府及び業界のパートナーの皆さんには、常に米国政府への完済の重要性に理解を示していただきました。不可能だと思われていたことを成し遂げる機会を与えてくれたこの偉大な国に感謝しています。」

流動性、資金管理およびその他の重要な動き

- 2012年9月30日現在、AIGの株主資本は合計で1,017億ドルとなりました。
- 2012年第3四半期に、米国財務省はAIG普通株式の売出しを2回実施しました。米国財務省

の収入は約 265 億ドルで、これには AIG による買い戻し約 80 億ドルが含まれます。米国財務省による AIG における残りの投資分は普通株式 2.342 億株、発行済株式の保有割合は約 15.9%まで減少しました。

- 2012 年 9 月、AIG は AIA グループ・リミテッド（「AIA」）の普通株式約 6 億株を、特定の機関投資家向けの売却という方法で売却し、総収入はおよそ 20 億ドルとなりました。
- 事業会社からの配当金および債務返済は、2012 年第 3 四半期には合計 7,500 万ドルであり、2012 年 10 月中にはさらに 12.5 億ドルを受領しました。
- 2012 年 9 月 30 日現在、親会社 AIG の流動性は約 116 億ドルとなっています。
- 2012 年 10 月 5 日、AIG は期間 4 年の修正シンジケート・クレジット融資枠を確保しました。このリボルビング融資枠は 40 億ドルで（以前の 30 億ドルから増加）、これには 20 億ドルの信用状枠が含まれます。

税引き後営業利益（損失）の内訳 （単位：百万米ドル）

	第 3 四半期	
	2012 年	2011 年
保険事業：		
AIG プロパティ・カジュアリティ	\$786	\$492
AIG ライフ・アンド・リタイヤメント	826	471
モーゲージ・ギャランティ（その他に計上）	3	(98)
保険事業合計	1,615	865
航空機リース	39	(1,317)
直接投資	428	119
グローバル・キャピタル・マーケット	190	(174)
AIA の公正価値の増減（2012 年の実現益を含む）	527	(2,315)
金融受け皿会社（ML III）の公正価値の増加	330	(931)
支払利息	(416)	(406)
全社費用および消去	(166)	(648)
税引き前営業利益（損失）	2,547	(4,807)
法人税（経費）／ベネフィット	(901)	1,975
非支配的持分－米国財務省	-	(145)
その他非支配的持分	(5)	(19)
AIG に帰属する税引き後営業利益（損失）	\$1,641	(\$2,996)

AIG プロパティ・カジュアリティ

AIG プロパティ・カジュアルティの 2012 年第 3 四半期の営業利益は、前年同期が 4.92 億ドルであったのに対して、7.86 億ドルとなりました。これは、異常災害損失の減少、最近取得した仕組み証券の利益による正味投資利益の増加、引受の改善を反映しています。リスク選択の焦点を絞って事業構成の最適化を進める一方で、料率トレンドの改善からも恩恵を受けました。注力している資本効率性向上の一環として、AIG プロパティ・カジュアリティは当四半期に 7,500 万ドルの現金配当金を AIG に支払い、2012 年 10 月にはさらに 8 億ドルの現金配当金を追加で支払いました。

2012 年第 3 四半期のコンバインド・レシオは、前年同期が 105.9 であったのに対し、105.0 となりました。2012 年第 3 四半期業績には、異常災害損失 2.61 億ドルと、前年の支払準備金による正味でのマイナスの影響 1.45 億ドルが含まれています。2012 年保険事故年度第 3 四半期の調整済み損害率は、付加価値の高い事業へのシフトと価格引き上げにより、前年同期の 68.4 から 66.5 に改善しました。2012 年第 3 四半期の経費率は 33.6 で、前年同期より 3.3 ポイント上昇しました。事業構成の変更および直接販売の重点化に関連した取得費用の増加により、経費率はおよそ 2.5 ポイント押し上げられました。残りの上昇の主な要因はシステムや人材への継続的な戦略的投資で、今後より大きな効率性をもたらすものと期待しています。

2012年第3四半期の正味収入保険料は、87億ドルであり前年同期比で0.6%増加、為替の影響を除くと2.4%増加しました。コマーシャル・インシュアランス事業の保険料は現地通貨建てでは、前年同期比0.2%減少しました。これは、特に米国での賠償責任保険におけるリスク選択の改善に向けた措置によるものです。資金効率を高めるために損失に敏感な事業の再編を続けたことが、コマーシャル・インシュアランス事業の正味収入保険料の0.7%減少に寄与しました。付加価値の高い事業と経済成長を続ける国における増加が、これらの措置の影響を一部相殺しました。コンシューマー・インシュアランス事業の保険料は現地通貨建てでは、主要な事業ラインにおける成長が要因となって、前年同期比6.2%増加しました。コンシューマー・インシュアランス事業は、マルチ販売チャネル戦略の一環として、引き続きダイレクト・マーケティングに重点を置きました。

コマーシャル・インシュアランス事業の2012年第3四半期の営業利益は3.21億ドル、コンバインド・レシオは107.1となりました。これに対して、2011年第3四半期の営業利益は4.05億ドル、コンバインド・レシオは107.2でした。2012保険事故年度第3四半期の調整済み損害率は、付加価値の高い事業へのシフトと価格引き上げにより、前年同期の74.2から71.7に改善しました。2012年第3四半期の経費率は27.8で、前年同期より3.5ポイント上昇しました。主にコマーシャル・インシュアランスの事業構成の変更による取得費用の増加により、経費率は約2.6ポイント上昇しました。残りの上昇は主に、貸し倒れ損失の増加と人材への戦略的投資に関連するものでした。

コンシューマー・インシュアランス事業の2012年第3四半期の営業利益は1.52億ドル、コンバインド・レシオは98.8となりました。これに対して、2011年第3四半期の営業利益は2,100万ドル、コンバインド・レシオは102.0でした。2012保険事故年度第3四半期の調整済み損害率は、付加価値の高い事業へのシフトと価格引き上げにより、前年同期の58.9から57.7に改善しました。2012年第3四半期の経費率は40.5となり、前年同期より1.8ポイント上昇しました。経費率上昇の主な要因は、コンシューマー・インシュアランスの事業構成の変更および直接販売への投資の増加に関連した取得費用の増加でした。

AIG ライフ・アンド・リタイヤメント

AIG ライフ・アンド・リタイヤメントの2012年第3四半期の営業利益は、前年同期が4.71億ドルであったのに対して、8.26億ドルとなりました。2012年第3四半期業績は、正味投資利益の増加、堅調な株式市況、規律ある保証利率の管理により、プラスの影響を受けました。これらの好要因は、規制上の評価1,100万ドル、未請求資産の処理や、当社に通常の形では提出されていない死亡請求を識別するための社会保障庁の死亡マスターファイルの利用に関する多段階の審査終了に伴う保険契約者給付準備金の増加5,500万ドル、また保証付き投資契約のランオフ契約に関連する準備金の増加1.1億ドルにより、一部相殺されました。また2012年第3四半期の営業利益は、AIG ライフ・アンド・リタイヤメントの特定の監督対象保険会社および生命保険事業、管理システムの統合に関連する再編費用2,000万ドルにより影響を受けました。これによって、サービス・デリバリー・モデルが改善し、オペレーティング・プラットフォームの効率性が高まるものと思われます。

2012年第3四半期の正味投資利益は、前年同期から3.02億ドル増加して26億ドルとなりました。2012年第3四半期の基礎投資利回りは5.38%となり、これに対して前年同期は5.49%でした。これは2012年第3四半期に、金利低下により新規取得分の利回りが低下したこと、クレジット・スプレッドが縮小したこと、新規取得分の信用格付けが上昇したことを反映しています。このような基礎投資利回りの低下は、保証利率の低下によって十分補えるもので、グループ・リタイヤメント商品ならびに個人向け定額年金の基礎正味投資スプレッドは、前年同期と比べて改善しました。また2012年第3四半期の基礎投資利回りは、前期の5.50%と比べても低下しました。これは、信用度が低下した仕組み証券の利益が伸び悩んだこと、一部の持分法投資の利益が減少したこと、また先に述べたように新規取得の利回りが低下したことを反映しています。

2012年第3四半期の収入保険料、預かり資産、その他の収入は、前年同期の59億ドルに対して、計48億ドルとなりました。これは、低金利環境のため、個人向け定額年金およびグループ・リタイヤメント商品の預かり資産が減少したことによるものです。個人向け変額年金、個人向けミュー

チュアル・ファンドは、販売組織の拡大、魅力的な商品ポートフォリオ、堅調な株式市況から恩恵を受けて、2011年第3四半期より大幅に増加しました。個人向け変額年金の預かり資産は、2012年第3四半期に前年同期より27.9%増加して、合計10億ドルとなりました。2012年第3四半期の収入保険料、預かり資産、その他の収入は、前期の54億ドルと比べて減少しました。これは主に、個人向け定額年金およびグループ・リタイアメント商品の預かり資産が減少したことによるものです。また個人向け変額年金の預かり資産が減少した一因は、AIG ライフ・アンド・リタイアメントの商品管理に対する規律あるアプローチによる商品の変更です。

2012年9月30日現在の運用資産は、前年同期の2,506億ドルに対して2,755億ドルとなりました。

2012年10月にAIG ライフ・アンド・リタイアメントは、AIG に対して債務返済の形で4.54億ドルの流動性を提供しました。

航空機リース事業

ILFC は、前年同期が13億ドルの営業損失を計上したのに対し、2012年第3四半期は3,900万ドルの営業利益を計上しました。前年同期の営業損失には、減損費用および公正価値調整15億ドルが含まれます。ILFC は、2012年第3四半期に9,800万ドルの減損費用を計上しました。

2012年第3四半期にILFC はリース料収入11億ドルを計上しましたが、これは前年同期から基本的に横ばいでした。リース料収入減少の要因は、古い機体の低料金での再リースと、多数の機体の早期返却および再取得による影響ですが、限られた新機の納入と、ILFC が2011年第4四半期に買収したエアロタービンからの収入によって一部相殺されました。

ILFC は2012年第3四半期に、2022年満期、利率5.875%の無担保債を発行して、既存債務の返済と機体購入など通常の目的で7.5億ドル調達しました。さらに2012年10月9日にILFC は、銀行団10行と無担保、期間3年のリボルビング信用枠23億ドルの契約を締結し、当初2014年満期の予定であった既存の20億ドルのリボルビング信用枠を解消しました。

モーゲージ・ギャランティ

AIG 傘下の住宅ローン保証保険会社であるユナイテッド・ギャランティ・コーポレーション (UGC) は、前年同期の9,800万ドルの営業損失に対して、2012年第3四半期には300万ドルの営業利益を計上しました。

2012年第3四半期業績は、すべての事業ラインで準備金の動向が差し引き良好でした。ただし、2008年以前に引き受けた第一抵当権付保険契約において新たな延滞が高水準で続いたことにより、一部相殺されています。

正味収入保険料は、前年同期の2.06億ドルに対して、2.19億ドルとなりました。国内の第一抵当権付保険契約の新規引受けは、前年同期が57億ドルであったのに対して、107億ドルとなりました。この主な要因は、前年同期と比べてモーゲージのオリジネーションが増えたことと個人にモーゲージが浸透したこと、さらにUSGの販売部隊の拡大、新たな貸し手、販売チャネルの追加、2011年下半期に競合2社が撤退したことです。高い質を保ち、新規契約の平均FICOスコアは758、平均借入金比率は91%でした。

その他の事業

AIG のその他の事業の営業損益は、前年同期が42億ドルの損失であったのに対して、2012年第3四半期には8.44億ドルの利益を計上しました。この主な要因は、AIG のAIA および金融受け皿会社 (Maiden Lane III) への投資の公正価値の変動で、この投資で前年同期には合計32億ドルの損失を計上したのに対して、2012年第3四半期には8.57億ドルの利益をあげました。

カンファレンス・コール

AIG は、明日 2012 年 11 月 2 日午前 8 時（米東部時間）より、カンファレンス・コールを開催し、当四半期業績についてのレビューを行います。このカンファレンス・コールは一般に公開され、ウェブキャスト（<http://www.aig.com>）でオンタイムに聞くことができ、終了後に再生することも可能です。

AIG の補足財務情報は、ウェブサイト（<http://www.aig.com/>）の投資家向けセクションでご覧いただけます。

#####

将来情報に関する警告的記述

カンファレンス・コール（カンファレンス・コールのプレゼンテーション資料を含みます）、決算報告、決算補足資料には、1995 年米国私的証券訴訟改革法の定義における「将来予測情報」にあたる可能性がある予測、目標、仮定および見解が含まれている場合があります。これらの予測、目標、仮定および見解は過去の事実ではなく、将来の出来事に関する AIG の考えを示しているに過ぎませんが、その多くは本質的に不確実で AIG が制御できないものです。これらの予測、目標、仮定および見解には、「考える」、「予想する」、「期待する」、「意図する」、「計画する」、「みなす」、「目標とする」、「見積もる」などの言葉が前後にくる、あるいは含まれる記述が含まれます。これらの予測、目標、仮定および見解には以下のものが含まれます。米国財務省（「財務省」）が保有する AIG 株式の売却時期、ILFC に対する AIG 持分の現金化、サブプライム・モーゲージ、モノライン保険会社、住宅用および商業用不動産市場、州債および地方債の発行体、ソブリン債の発行体に対する AIG のエクスポージャー、欧州の政府および金融機関に対する AIG のエクスポージャー、AIG のリスク管理戦略、AIG による配置可能な資本の創出、AIG の株主資本利益率および 1 株当たり利益の長期の意欲的な目標、また正味投資利益の増加、資本の効率的な管理、コスト削減に関する AIG の戦略、また顧客維持、成長、商品開発、市場での地位、業績、引当金に関する AIG の戦略、そして AIG 子会社の収入およびコンバインド・レシオなどを考慮に入れることがあります。AIG の実際の業績ならびに財務状況が、これらの見解、目標、仮定および記述で示されていた予測から場合によっては大きく逸脱する可能性があります。AIG の実際の業績が、特定の見解、目標、仮定や記述で示された予測から場合によっては大きく逸脱し得る要因には、市場環境の変化、天災および人災による異常災害の発生、重要な法的手続き、貯蓄貸付持株会社として、またそのように判断された場合には、システム上重要な金融機関として、AIG が対象となる新たな規制の枠組みの導入時期および適用要件、地方債ポートフォリオなど AIG の投資ポートフォリオにおける集中、格付け機関の動向、損害保険の引受けならびに引当金に関する判断、繰延税金資産の認識に関する判断、繰延保険獲得費用(DAC)の復元可能性に関する判断、ILFC の機体価値の復元可能性に関する判断、2012 年 9 月 30 日末の AIG のフォーム 10-Q による四半期報告書パート I 項目 2（「経営陣による財務状況と業績の検討および分析（MD&A）」）およびパート II 項目 1A（「リスク要因」）、2012 年 6 月 30 日末の AIG のフォーム 10-Q による四半期報告書パート II 項目 1A（「リスク要因」）、またそれぞれ 2012 年 2 月 27 日、2012 年 3 月 30 日に提出されたフォーム 10-K/A による修正 1、修正 2 で修正された 2011 年 12 月 31 日末の AIG のフォーム 10-K による年次報告書のパート I 項目 1A（「リスク要因」）、さらにパート II 項目 7（「MD&A」）、また 2012 年 5 月 4 日に提出された AIG のフォーム 8-K による臨時報告書添付書類 99.2（「MD&A」）で取り上げられている事項などがあります。AIG は、書面または口頭にかかわらず、見解、目標、仮定やその他の記述を更新・変更する義務を負わないとともに、その義務を明確に否認します。こうした更新や変更は、新しい情報、将来の事象その他の結果として、随時生じる可能性があります。

AIG について

AIG グループは世界の保険・金融サービス業界のリーダーであり、130 以上の国・地域でサービスを提供しています。AIG グループ各社は、世界最大級のネットワークを通して、個人・法人のお客様に損害保険を提供しています。このほか、生命保険事業、リタイアメント・サービス事業を米国で展開しています。持株会社 AIG, Inc.の株式はニューヨークと東京の各証券取引所に上場されています。

#####

規定 G に関する注釈

財務ハイライトを含めた本プレスリリースでは、最も意味があり、最も良く表し、最も透明性が高いと考えられる方法で業績を示しています。これらの表示方法の一部には、非 GAAP 型の財務数値が用いられています。本リリース中の関連した表、および AIG 本社のウェブサイト（<http://www.aig.com/>）の投資家向け情報セクションでご覧いただける 2012 年第 3 四半期の補足財務情報には、非 GAAP 型の財務数値から規定 G に基づく最も GAAP に類似した数値への調整が示されています。

AIG は、税引き後営業利益（損失）によって、継続事業の業績とその基本的な収益性を浮き彫りにすることで、各事業の営業成績をより正しく評価し、より良く理解することができると考えています。税引き後営業利益（損失）は、非継続事業の純利益（損失）、事業売却による純損失、事業売却による純利益、従来の FIN48 に係る項目、訴訟損失引当金の変動、繰延税金評価引当金の費用および減算、NY 連銀前払委託手数料資産の償却、生前給付債務をヘッジするための AIG ライフ・アンド・リタイアメントの債券の公正価値の変動、AIG ライフ・アンド・リタイアメントの給付積立金の増減と繰延保険獲得費用（DAC）、獲得事業価値および販売促進資産の給付（償却）、正味実現キャピタル・（ゲイン）ロス、また正味実現キャピタル・（ゲイン）ロスを除く要件を満たしていないデリバティブ・ヘッジ取引を除きます。AIG に帰属する純利益（損失）の税引き後営業利益の調整については、9 ページを参照してください。

また、場合によって、収入、純利益、営業利益および関連する業績指標は、発生した損失について得られていない税法上の恩典による影響、一時的でない減損の認識、事業再編関連活動、パートナーシップからの利益、その他利益に対するプラス要因、信用評価の調整、未実現評価益（評価損）、異常災害関連損失および前年の動向、割引率の変動、アスベスト関連の損失、前年の動向に関連する返還または追加保険料、外国為替レート、航空機の減損を除外して示しています。

いずれの場合も、AIG はこれらの項目を除外することで、継続事業の業績と基礎的な収益を明らかにして、投資家の皆様が AIG の基本的な事業それぞれの業績をより良く把握することができると考えています。非 GAAP 型の提示による情報を提供することは、投資家やアナリストの皆様にとって有益であり、GAAP 型の提示による情報よりも意味があると考えています。そのような指標が開示されている場合、GAAP 型の税引き前利益への調整が示されています。

投資利益（または損失）および実現キャピタル・ゲイン（ロス）を生み出すための収入保険料の投資が、生命保険・損害保険事業の中心となりますが、実現キャピタル・ゲイン（ロス）の算定は、保険引受けプロセスとは関係していません。さらに、GAAP に基づく会計方針に従った場合、未実現の一時的な価値の下落以外の結果から損失が生じてくる場合があります。このため、あらゆる特定の期間についての投資利益および実現キャピタル・ゲイン（ロス）は、四半期毎の事業結果を示すことにはなりません。

生命保険とリタイアメント・サービス事業の売上高（収入保険料、預かり資産およびその他の収入、生命保険の継続的支払い利益同等（CPPE）売上高）には、非 GAAP 型の財務数値が用いられています。これには、生命保険収入保険料、年金契約およびミューチュアル・ファンドの預かり資産が含まれます。AIG は、保険業界において業績の標準的な測定基準であり、AIG の保険業界での競合他社との比較をより意味のあるものとするという理由から、この財務数値を用いています。

2012 年第 2 四半期には税引き後営業利益から、主に特定の既存の企業訴訟に関連する特定の訴訟費用、また AIG の継続事業業績に反映されていない不確実な税務ポジション（FIN 48 による）に係る特定の引当金を除いてあります。2012 年第 1 四半期に AIG は税引き後営業利益（損失）の定義を見直し、AIG ライフ・アンド・リタイアメントの生前給付債務をヘッジするための債券の公正価値の変動と、正味実現キャピタル・ゲイン（ロス）に関連する給付金積立金の増加を除くこととしました。AIG は、このような税引き後営業利益（損失）の定義の見直しで、ヘッジに関連するボラティリティやキャピタル・ゲインを得るための活動を業績から除くことで、AIG ライフ・アンド・リタイアメントの事業の業績をより良く評価し、把握することができると考えています。AIG は、この見直し後の税引き後営業利益（損失）の定義を、AIG が AIG ライフ・アンド・リタイアメントの事業の業績をどのように評価しているかを示す指標としてより良いものと考えています。

アメリカン・インターナショナル・グループ・インク財務ハイライト*

(単位：百万米ドル、ただし1株当たりの情報を除く)

	9月30日までの3ヶ月間			9月30日までの9ヶ月間		
	2012年	2011年	増減(%)	2012年	2011年	増減(%)
AIG プロパティ・カジュアリティの事業：						
正味収入保険料	\$ 8,712	\$ 8,659	0.6	\$ 26,627	\$ 26,992	(1.4)
正味既経過保険料	8,752	9,043	(3.2)	26,260	26,727	(1.7)
請求および請求調整費用	6,252	6,838	(8.6)	18,240	21,274	(14.3)
引受経費	2,941	2,737	7.5	8,858	7,947	11.5
事業損失	(441)	(532)	17.1	(838)	(2,494)	66.4
正味投資利益	1,227	1,024	19.8	3,603	3,345	7.7
営業利益	786	492	59.8	2,765	851	224.9
正味実現キャピタル・ゲイン(a)	161	60	168.3	49	153	(68.0)
その他の利益 (損失)	2	(1)	-	6	(1)	-
税引き前利益	\$ 949	\$ 551	72.2	\$ 2,820	\$ 1,003	181.2
損害率	71.4	75.6		69.5	79.6	
経費率	33.6	30.3		33.7	29.7	
コンバインド・レシオ	105.0	105.9		103.2	109.3	
AIG ライフ・アンド・リタイアメントの事業：						
収入保険料の売上	\$ 575	\$ 591	(2.7)	\$ 1,802	\$ 1,874	(3.8)
保険証券発行手数料	691	658	5.0	2,056	2,024	1.6
正味投資利益	2,597	2,295	13.2	8,003	7,510	6.6
収入合計	3,863	3,544	9.0	11,861	11,408	4.0
給付および費用	3,037	3,073	(1.2)	8,791	9,043	(2.8)
営業利益	826	471	75.4	3,070	2,365	29.8
生前給付債務をヘッジするための債券の公正価値の変動、支払利息を除く	(3)	-	-	48	-	-
給付金積立金の変動と、正味実現キャピタル・ゲイン(ロス)に関連する DAC、VOBA、SIA	(604)	(163)	(270.6)	(1,120)	(195)	(474.4)
正味実現キャピタル・ゲイン (ロス) (a)	670	38	-	530	(91)	-
税引き前利益	889	346	156.9	2,528	2,079	21.6
航空機リース事業：						
収入	1,145	1,118	2.4	3,421	3,374	1.4
費用	1,106	2,435	(54.6)	3,175	4,488	(29.3)
営業利益 (損失)	39	(1,317)	-	246	(1,114)	-
正味実現キャピタル・ゲイン (ロス) (a)	1	(12)	-	-	(8)	-
税引き前利益 (損失)	40	(1,329)	-	246	(1,122)	-
その他の事業、営業利益 (ロス)	844	(4,242)	-	3,830	(1,991)	-
その他の事業、正味実現キャピタル・ゲイン調整前 税引き前利益	844	(4,244)	-	3,108	(5,694)	-
その他の事業、正味実現キャピタル・ゲイン (ロス) (a)	47	299	(84.3)	403	(161)	-
会社間連結・消去調整 (a)	(174)	107	-	(175)	109	-
継続事業のタックス・エクスペンス (ベネフィット) 調整前利益 (損失)	2,595	(4,270)	-	8,930	(3,786)	-
タックス・エクスペンス (ベネフィット)	735	(665)	-	1,290	(1,187)	-
継続事業の純利益 (損失)	1,860	(3,605)	-	7,640	(2,599)	-
非継続事業の利益 (損失)、税引き後	1	(221)	-	9	2,327	(99.6)
純利益 (損失)	1,861	(3,826)	-	7,649	(272)	-
控除：						
非支配的持分に帰属する継続事業の純利益：						
非支配的で議決権のない任意償還条項付きの優先順位の高い、および優先順位の低い受益権	-	145	-	208	538	(61.3)
その他	5	19	(73.7)	45	28	60.7
非支配的持分に帰属する継続事業の純利益	5	164	(97.0)	253	566	(55.3)
非支配的持分に帰属する非継続事業の純利益	-	-	-	-	19	-
非支配的持分に帰属する純利益	5	164	(97.0)	253	585	(56.8)
AIG に帰属する純利益 (損失)	1,856	(3,990)	-	7,396	(857)	-
AIG 普通株主に帰属する純利益 (損失)	\$ 1,856	\$ (3,990)	測定せず	\$ 7,396	\$ (1,669)	測定せず

財務ハイライト (続き)

	9月30日までの3ヶ月間			9月30日までの9ヶ月間		
	2012年	2011年	増減(%)	2012年	2011年	増減(%)
AIG に帰属する純利益(損失)	\$ 1,856	\$ (3,990)	- %	\$ 7,396	\$ (857)	- %
AIG に帰属する税引き後営業利益 (損失) の調整 (税引き後)						
非継続事業の (利益) 損失	(1)	221	-	(9)	(2,308)	99.6
事業売却の純損失	-	1	-	2	49	(95.9)
事業売却の利益	-	-	-	-	(16)	-
従来 of FIN 48 による項目	12	-	-	343	-	-
訴訟損失引当金の変動	-	-	-	467	-	-
繰延税金資産評価引当金費用 / (減算)	(229)	1,162	-	(1,795)	1,103	-
NY 連銀前払委託手数料資産償却	-	-	-	-	2,358	-
生前給付債務をヘッジするための債券の公正価値の変動	2	-	-	(31)	-	-
給付積立金の増減と、正味実現キャピタル・(ゲイン) ロスに関連する DAC、VOBA、SIA	393	102	285.3	729	119	-
正味実現キャピタル・(ゲイン) ロス	(387)	(430)	10.0	(488)	(40)	-
要件を満たしていないデリバティブ・ヘッジ取引、正味実現キャピタル・ゲイン (ロス) を除く	(5)	(62)	91.9	(18)	(75)	76.0
AIG に帰属する税引き後営業利益 (損失)	\$ <u>1,641</u>	\$ <u>(2,996)</u>	-	\$ <u>6,596</u>	\$ <u>333</u>	-
普通株式 1 株当たり利益 (損失) - 希薄化後:						
AIG 普通株主に帰属する純利益 (損失)	\$ <u>1.13</u>	\$ <u>(2.10)</u>	-	\$ <u>4.21</u>	\$ <u>(0.95)</u>	-
AIG 普通株主に帰属する税引き後営業利益 (損失)	\$ <u>1.00</u>	\$ <u>(1.58)</u>	-	\$ <u>3.75</u>	\$ <u>0.19</u>	-
AIG 株主資本の普通株式 1 株当たり帳簿価額 (b)				\$ 68.87	\$ 42.60	61.7 %
株主資本利益率—税引き後営業利益 (c)	7.0%	測定せず		9.2%	0.6%	-

財務ハイライト特記事項

* 規定 G に従った調整を含んでいます。

- (a) ヘッジ会計処理を行う要件を満たしていない、為替差損益を含むヘッジ取引からの利益 (損失) を含んでいます。
- (b) AIG 株主資本合計を発行済み普通株式で割ったものを示しています。
- (c) その他の包括利益累積額を除く、調整済み株主資本を用いて算出しています。